

図画工作

図画工作科においては、感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする力を育むことが課題です。そのため、育成する資質・能力を明確にした評価規準を設定すること、言語活動を一層充実し、「つくり、つくりかえ、つくる」という学習過程を重視すること、発達の段階を踏まえて学習活動の充実を図るとともに、1人1台端末を効果的に活用することが大切です。

I 目標の明確化や評価の充実のポイント

育成を目指す資質・能力を明確にするためには、適切な内容の設定と、具体的な評価規準の設定が大切です。

題材の内容は多様な活動を通して資質・能力を育成するため、作品の制作を目的とせず、何から発想するのか、どのような材料を扱うのかなど、児童の実態を踏まえて設定し、指導に当たることが大切です。

このことを踏まえ、学習評価を児童の学習改善や教師の指導改善につなげ、指導と評価の一体化を図ることが重要です。

① 題材に即した適切な内容を設定して評価 ・何から発想するのか、どのような材料を扱うのかなど、児童の実態を踏まえ、適切な内容を設定し、多様な活動を通して資質・能力を育成するため、その題材に即して具体的に示した評価規準を設定すること	つくり、つくりかえ つくる 学習過程の充実	④ 「思考・判断・表現」の評価 ・造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、発想や構想したり自分の見方や感じ方を深めたりする児童の姿を捉えて評価すること
② 「知識・技能」(知識)の評価 ・感覚、行為や活動を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること ・その題材で児童が習得、活用する「知識」を明確にして指導し、評価すること		⑤ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価 ・発想や構想、技能を働かせること、鑑賞などに(楽しく、進んで、主体的に)取り組む児童の姿を捉えて評価すること ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」と関連付けて評価すること
③ 「知識・技能」(技能)の評価 ・一定の手順や段階を辿って身に付けるのではなく、変化する状況や課題に応じて主体的に活用する中で、身に付ける児童の姿を捉え、評価すること ・偏った指導にならないよう留意すること		

【観点別の学習評価と指導のポイント】

II 指導計画の改善のポイント

指導計画の作成に当たっては、題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るように工夫します。

主体的・対話的で深い学びの実現を図るためには、表現及び鑑賞の活動を通して、児童一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習が充実するようにすることが大切です。自分の成長やよさ、可能性などに気付き、次の学習につなげられるようにすること、「この形や色でいいか」、「自分の表したいことは表せているか」など自分の行為や活動を振り返り、感じたり考えたりすることを大切にしつつ、互いの活動や作品を見合いながら考えたことを伝え合ったり感じたことや思ったことを話したりするなどの言語活動を一層充実することが大切です。

また、児童は一度つくって満足することもあります。つくっている途中で考えが変わって、つくりかえることもあります。こうした実現したい思いを大切に活動する「つくり、つくりかえ、つくる」という学習過程を重視することが大切です。

III 手立ての充実のポイント

児童が感性や想像力等を働かせることができるようにするためには、発達の段階を踏まえて学習活動の充実を図ることが大切です。低学年の時期の児童は、周りの人、物、環境などに体ごと関わり全身で感じるなど、対象と一体になって活動する傾向、中学年の時期の児童は、ある程度対象との間に距離をおいて考え、そこで気付いたことを活用して活動する傾向、高学年の時期の児童は、新聞やテレビなどからの情報を活用して考えたり、直接体験していないことに思いを巡らせたりする傾向が見られます。

また、感じたことや想像したことなどを造形的に表す表現や、作品などからそのよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める鑑賞の学習過程において、1人1台端末を活用することが考えられます。例えば、作品や自分たちの活動を端末で撮影することで、新たな発想や構想のきっかけにしたり、自分の作品を撮りためて鑑賞の時間に活用したりするほか、プログラミングの機能を生かし、形や色、コンピュータの特長などを考えながら工作に表すことなどが考えられます。なお、1人1台端末の活用に当たっては、実際にもものに触れたり見たりすることが図画工作科では重要であることを踏まえ、学習のねらいに応じて必要性を十分に検討し、活用することが大切です。

【参考資料】

・小学校図画工作科の指導におけるICTの活用について(文部科学省)



感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする力を育む計画の改善

<単元名>

「ざいりょうから ひらめき」

<題材の目標>

- (1) 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付き、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。
- (2) 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えとともに、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。
- (3) 材料を見たり触ったりして感じたことや想像したことから絵に表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

【I 育成する資質能力の明確化】
 ・題材に即した適切な内容を設定し、学習評価を設定している。
 ・その際、学習指導要領解説や『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参考としている。

<題材の評価規準>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。 ②身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。	①形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。 ②形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	①つくりだす喜びを味わい材料を見たり触ったりして感じたことや想像したことから絵に表す活動に取り組みようとしている。

<単元の指導計画（5時間）> (◎…記録に残す評価、○…指導に生かす評価)

学習過程	学習活動	評価規準・評価方法等
表現 (1)	○色や形、質感などに着目して見たり触ったりし、材料から想像して、どのようなことを表したいかを考え、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。 ○表したいことなどを友だちと伝え合い、さらに発想や構想をする。	◎知① (知識) 観察・対話・作品 ○思① (発想や構想) 観察・対話・作品
表現と鑑賞の関連 表現 (2~4)	○表したい思いを基に、材料の色や形、質感等の生かし方を考え、表し方を試したり組み合わせたりしながら絵に表す。 ○造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方など、考えたいことに合わせて、友だちの作品を見たり話したりしながら、発想や構想をする。 ○手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方を工夫して表す。	◎思① (発想や構想) 観察・対話・作品 ○態① 観察・対話・作品 ◎知② (技能) 観察・対話・作品
鑑賞 (5)	○友だちと互いの作品を見合い、よさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方について感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。	◎思② (鑑賞) 観察・対話・作品 ◎態① 観察・対話・作品

【III 発達の段階を踏まえた手立ての充実】
 ・発達の段階を踏まえ、身の周りの材料を見たり触ったりする活動を通して素直な喜びや驚きを実感できるようにしている。

【I 指導と評価の一体化】
 ・「知識」の視点で、形や色などに着目している様子を、観察する、つぶやきを捉えるなどして、学習状況を把握し、指導に生かすとともに記録に残している。
 ・また、学習活動の早い段階で、発想や構想をすることに対して「努力を要する」状況の児童にはつまづいている点を把握し、「知識」の視点から色や形に着目したり触ったりするなどして、発想や構想につなげることができるようにしている。

【II 表現や鑑賞を相互に関連付ける指導の充実】
 ・発想や構想をしたり技能を働かせたりしているときに、友だちの作品や身近な材料などから、自分の見方や感じ方を深めたり、新たな発想や構想、技能の手掛かりを得たりすることができるよう、表現や鑑賞を相互に関連付けている。
 ・その際、作品の製作の過程で一律に形式的な相互に鑑賞する時間を設けるなどすることは、造形活動の広がりや表現の意欲の高まりを妨げることはないよう留意している。

【II 言語活動の充実】
 ・互いの作品を見合いながら考えたことを伝え合ったり感じたことや思ったことを話したりするなどの言語活動の充実を図っている。例えば、鑑賞の場面では、造形的な見方・考え方を働かせ、作品作りのプロセスを説明するようにしている。

【III 1人1台端末の活用】
 ・毎時間の終末、1人1台端末で自分の作品の写真を撮りため、鑑賞の時間に発表する際に活用している。